

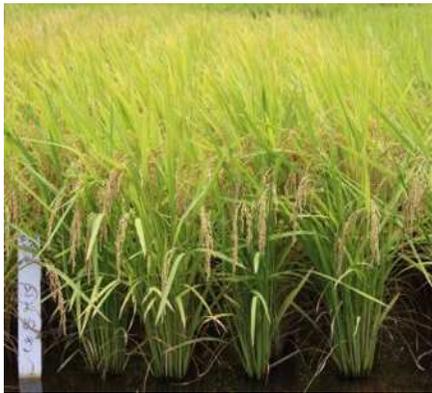
業務・加工用向け早期栽培用多収水稻品種「とよめき」の特性

「とよめき」は「イクヒカリ」に比べて約15%収量が多く、「コシヒカリ」「イクヒカリ」との作期分散が可能

背景・目的

- ・稲作農家の経営安定化には販路拡大や規模拡大が必要である。
- ・弁当等の中食用、焼酎麴、米粉等の業務用米の需要が増加している。
- ・食味重視の主食用米に加え、各用途に対応した収量性の高い品種が求められている。
- ・早期栽培用の「コシヒカリ」や「イクヒカリ」を上回る多収品種の選定・普及が課題となっている。

成果の内容



「とよめき」の特徴（「イクヒカリ」と比較）

- ・千粒重は同程度からやや重く、収量は極多収。
- ・稈長は同程度、穂長は長く、1穂粒数は多い。
- ・出穂期で4日、成熟期で8日遅い
早期栽培用晩生種。

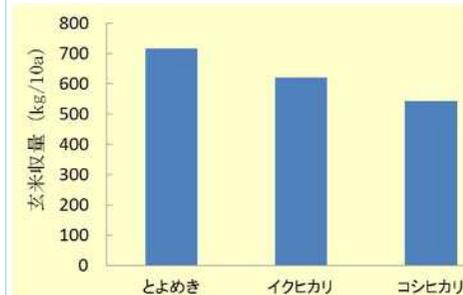
品種名	耐倒伏性	穂発芽性	脱粒性	除草剤	いもち耐病性		縞葉枯病	白葉枯病	
				感受性	遺伝子型	葉	穂	抵抗性	抵抗性
とよめき	やや強	中	難	感受性	Pib 他	弱	不明	罹病性	やや弱
イクヒカリ(比較)	強	難	難	抵抗性	Pita-2 <i>i</i>	中	弱	罹病性	中

注)1. 除草剤感受性は除草剤成分ベンゾビスクロン、テフリルトリオン、メソトリオンに対する感受性

注)2. データは育成地情報

除草剤の種類
に注意！

導入メリット



○収量は「コシヒカリ」に比べ約30%アップ、「イクヒカリ」に比べ約15%アップ

○中食用に適する。

○異なる熟期で作期分散が可能



作期分散が可能

熟期及び用途向け品種の組み合わせで販路拡大&規模拡大による経営安定化

期待される効果

大規模水稻農家の経営安定化

鹿児島県農業開発総合センター園芸作物部作物研究室

普及対象・範囲
県内早期水稻栽培農家